

■ BUNGAKUZA TSUSHIN 2025.11 Vol.795

文学座通信

●本公演・地方公演『華岡青洲の妻』

鼎談 | 華岡家の“娘”たち

太田しづか×吉野実紗×平体まひろ…… 1~2

公演情報…………… 3

●地方公演『華岡青洲の妻』/『昭と虞美人草』… 4

●『野良豚』座内合評会 —— 西本由香…………… 5

●三島さんと遊んだ思い出 — 本山可久子… 6~7

●アトリエ短信…………… 8

■ 文学座公演

後援 = 新宿区

華岡青洲の妻

作 = 有吉佐和子 演出 = 鵜山 仁

■ スタッフ

美術 = 乗峯雅寛 / 照明 = 古宮俊昭 / 音響 = 秦 大介

衣裳 = 岸井克己 / 舞台監督 = 加瀬幸恵 / 演出補 = 大内一生

制作 = 前田麻登、梶原 優、最首志麻子、友谷達之

方言指導 = 三嶋昭代、池谷量子 / 宣伝美術 = 三木俊一(文京図案室)

宣伝写真 = 宮川舞子 / 鑑賞サポート = 舞台ナビLAMP

■ キャスト

小野洋子、石川 武、つかもと景子、金沢映実、大原康裕

吉野正弘、太田しづか、吉野実紗、采澤靖起、奥田一平

川合耀祐、小谷俊輔、平体まひろ



| 鼎談 | 華岡家の“娘”たち

演技部 太田しづか × 吉野実紗 × 平体まひろ

▼『華岡青洲の妻』に向き合う

—— 今日で読み合わせが終わり、いよいよ立ち稽古ですね。華岡家の“娘”世代のお三方にお話を伺いますが、これまでの『華岡青洲の妻』体験からお聞かせいただけますか。

吉野 私は高校生のとき、母(吉野由志子)が於継をやったのを観たのが最初です。地方公演で九州に行っているところにお邪魔させてもらって。皆さんのカラオケ大会に参加させていただいた思い出があります(笑)。

太田 私は二十五年くらい前の、吉野さんが於継をなさった公演に、ちょっとだけ裏方で付いてたんです。

吉野 え、九州ですか？

太田 どこかは忘れてしまっただけど、カラオケ大会はなかった(笑)。そのときの皆さんの印象が強いです。つかもと景子さんが於勝をされていたので、私の中の於勝のイメージはつかもとさんだったんです。今回、自分が参加することになって驚いています。

平体 私は全く見たこともなく、小説や戯曲を読んだこともなくて、お話をいただいてから慌てて小説を取り寄せたくらいで……。今年の松竹さんの舞台は拝見しましたけれど。

—— 小説を読まれていかがでしたか。

平体 女の人のきれいな部分も汚い部分も全部、ふわっとまとめて投げつける間いかけ方が、男性が書く小説とは違う肌合いでおもしろかった。嫁姑

の関係は今の感覚ではピンとこない部分が多かったんですが、有吉(佐和子)さんの筆致で、加恵の気持ちにも於継の気持ちにも寄り添えました。

—— 稽古が始まる前に準備されていたことなどは。

吉野 台詞が本当に特殊な方言なので、和歌山の空気感とかを知りたいと思って、去年の夏、高野山のお寺の宿坊で三週間くらい住み込みのお仕事をさせてもらったんです。青洲さんのご実家にも行って、お墓参りもしました。語尾の「のし」とかは今使う人はほとんどいなくて、上の世代でも名手辺りの人しか使わないそうですね。

平体 資料や参考文献を集めて読む作業は、個人的趣味でもあるので今までも行っていました。今回ほど昔の映像を見て研究するのは初めてです。ずっと和物をやってみたくて漠然と思っていたんですが、いろいろ調べて掘っていくと、脈々と続いているノウハウを感じざるを得ない。それを二〇二五年という今やることの意味にどう落とし込めばいいのかを考えるのが楽しくて、おもしろい体験をしています。

吉野 今日の稽古で鵜山(仁)さんが「シェイクスピアっぽい」とおっしゃってたよね。

平体 展開の都合が良すぎるし、役の気持ち急が百八十度変わるところが何回もあるから(笑)。パワーがないと行ききれないし、信じ込めないと役を生ききれない。

アトリエ短信

■ すみだパークシアター倉×文学座
ワークショップのご案内

すみだパークシアター倉と文学座
では、演劇を使ったコミュニケーション
シヨクワークショップを開催します。

◇ 11月10日(月)・11日(火)

18時～21時

◇ すみだパークギャラリーささや

◇ 講師＝石ヶ森光政(jubilee Studio
代表)、富沢亜古、塩田朋子、横山
祥二(以上演技部)

◇ 料金＝1万円

(消費税込・ドリンクチケット付)

◇ 定員＝25名

(※定員になり次第、受付終了)

◇ お申し込み＝お名前、お電話番号
をメールでお知らせください。

◇ ws.bungakuza@gmail.com

◇ お問い合わせ

03-3351-7265

(11～18時/土・日・祝を除く)

■ 立教大学×文学座朗読会のご案内

今年1月に開催した、立教大学
江戸川乱歩記念大衆文化研究セン
ターとの共同企画、江戸川乱歩作品

の朗読会の第2弾です。乱歩の掌編
小説の朗読とその作品解説の2本立
で。登壇者によるアフタートークも
実施します。

◇ 12月12日(金) 19時～20時半

◇ 立教大学 太刀川記念館3階
カンファレンス・ルーム

◇ 入場無料(要予約)

◇ 朗読＝武田知久(演技部)

解説＝杉本佳奈(立教大学助教)

◇ お申し込み・お問い合わせ＝立教
大学大衆文化研究センター

03-3985-4641

(10時半～16時/月・水・金のみ)

◇ rampo@rikkyo.ac.jp

主催＝立教大学大衆文化研究センター
共催＝文学座



2026年3月 アトリエの会 フェフ アンド ハー フレンドズ 『Fefu and Her Friends』

作＝マリア・アイリーン・フォルネス

演出＝エリーズ・トロネ

翻訳・ドラマツルク＝添田園子

フェフだより

上演に向けた準備が動き出してい
ます。今月から8人のキャストによる
「フェフだより」をお届けします。初日が開く
までの時間を少しだけ覗いてみてください。

01 柴田美波

皆でアトリエを歩き回って動
線をシミュレーションした時の

の感動が忘れられない。過去、現在、未来でさ
えも行き来できたような感覚。そうか。これが
エリーズのいう「アトリエ・タイム」か。アトリエが
フェフの家になる。わぁ……。楽しすぎるぞ……。

02 千田美智子

演出家のエリーズ、翻訳の

添田さん、キャストが揃って、

台本の原文に立ち返る時間を持つことができ、
本当に幸せでした。疑問に感じた単語ひとつに
じっくりと時間をかけ、対話を通してみんなで
深めてゆく。本稽古までに、自分の中にどんな
変化が生まれるのかとても楽しみです。

出演情報 ◎追加情報は文学座HPにて

★乃村美絵：『ハリー・ポッターと呪いの
子』(J.K.ローリングオリジナルストーリー、
ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚
本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・
ティファニー オリジナルストーリー・演出)
2024年7月～ TBS赤坂ACTシアター

★山下瑛司：『カタブイ、2025』(内藤
裕子作・演出) 11/2～8 ひめゆりピース
ホール(沖縄)、11/28～12/7 紀伊國屋
ホール

★横田栄司、比嘉崇貴：『リア王』(W.
シェイクスピア作、木内宏昌訳、フィリッ
プ・ブリーン上演台本・演出) 11/8～16
Skyシアター MBS(大阪)

★鶴田しげ里：『とりあえずの死―日本
棄民伝―』(藤田傳作、小林七緒演出)
11/6～10 東京芸術劇場(池袋)

★亀田佳明：『狩場の悲劇』(アントン・
チェホフ原作、永井愛脚色・演出)
11/7～19 紀伊國屋サザンシアター
TAKASHIMAYA ほか

★森寧々：MORINE' 第1回リーディング
公演『VOLE! 飛べ!』(Eva RAMI作、
岩切正一郎訳、水野玲子演出) 11/7・8

中野 RAFT

★櫻井章喜：『焼肉ドラゴン』(鄭義信
作・演出) 11/14～23 芸術の殿堂(ソ
ウル・アーツ・センター) CJトウォル劇場
(韓国)、12/6・7 J:COM 北九州芸術劇
場、12/12・13 オーバード・ホール(富山)、
12/19～21 新国立劇場(初台)

★栗田桃子：『すべての幸運を手にした
男』(アーサー・ミラー作、高田曜子訳、
リンゼイ・ボズナー演出) 11/14～12/2
東京グローブ座(新大久保)

★倉野章子、川辺邦弘、石森咲妃、河野
顕斗：『アルルの女』(ジョルジュ・ビゼー作
曲、アルフォンス・ドーデ台本、五戸真理枝
演出) 11/22 東京藝術大学奏楽堂(上野)
★稲岡良純：『しろたへの春 契りきな』
(山谷典子作、辻輝猛演出) 11/27～30
シアターグリーン(池袋)

★石井麗子、奥山美代子：月波兎『いつも
のオーロラが割った夜』(山崎元晴作、寺
十吾演出) 11/27～12/1 ザ・ポケット(中野)

★高橋耕次郎：『NO WAR!!』第一幕
川谷弘子一人芝居「無垢の人-正田福太
郎の青春-」(高橋耕次郎作・演出) / 第
二幕 高橋耕次郎一人芝居「無事の人-

正田為吉の一生-」(山本有三原作、高橋
耕次郎脚色台本・演出) 石川耕士演出に
拠る) / 第三幕「NO WAR!! -父子の切
なる願い-」(高橋耕次郎作・演出) 11/29
きららの杜とちぎ蔵の街楽習館
※高橋耕次郎の出演は第二幕と第三幕

★浅野雅博：『スリー・キングダムス』(サ
イモン・ステイーヴンス作、小田島創志訳、
上村聡史演出) 12/2～14 新国立劇場

★鍛冶直人：『幻想水滸伝-門の紋章戦
争篇-』(中屋敷法仁脚本・演出) 12/6～
14 シアター H(東京モノレール「大井競馬
場前」駅より徒歩5分) ほか

★駒井健介：『スイートホームビターホー
ム』(藤井清美作・演出) 12/6～14 大阪
松竹座 ほか

★渋谷はるか：『さよなら挽歌』(深井邦彦
作・演出) 12/12～21 新宿シアタートッ
プス

★采澤靖起：『ゴドーを待ちながら』(サ
ミュエル・ベケット作、岡室美奈子訳、
西本由香演出) 2026/1/30～2/15 赤坂
RED/THEATER

※特別先行予約(受付期間 11/22～30)
<https://eplus.jp/unezawayasuyuki/>

